



何やら賑やかな笑い声が外まで聞こえて来ます。お花の会と聞いてきたのに、間違えたかなと中をのぞいて見ると、たくさんの人が…。交通の便が悪く、なかなか街中まで出掛けることが難しいので、地元で何かできないかと考えた代表の越川さん。隣の川島地区で、野の花や庭にある花で花遊びを楽しんでいる方々を指導していた、埴地区の平山敬子さんに講師をお願いし「お花をやりよう」と、近所の方々5～6人に声を掛けました。それが次々に口コミで広まり、なんと坂地区だけで35人が参加してくれることに!! 「まさかこんなに集まるとは思ってもいなかった」と話す越川さん。こうして『花あそび常磐会』が誕生しました。

このサークルの特徴は、地域密着型で、材料の花や花器にお金をかけないこと一。目的は、野の花や庭にある花を身の回りにある日常雑器に活けて楽しみ、花を飾ることで家庭に潤いとゆとりをもたらすことです。もちろん、花を愛する者同士の交流も欠かせない目的の一つ。「今まで交流のなかった人とも仲良くなれた」「家の中に花を飾ったら明る

サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

第27回 お花サークル 『花あそび常磐会』

- ①活動歴 3カ月
- ②年齢層 50代～80代の女性
- ③活動場所 坂区民館
- ④活動時間 毎月第1木曜日
9:00～12:00
- ⑤代表者 越川記恵(こしかわ きえ)
- ⑥連絡先 ☎(76)8216

なった」など、次の会が待ち遠しいとメンバーは口をそろえます。前日ともなると、庭や田んぼ、近所の野山に出掛け、色や咲き具合、器とのバランスを考えながら花材を探します。中でもタカノハスキは万能選手。少し加えるだけで、何とも小粋に仕上がるから不思議です。

活け終わったところを見計らい、平山

さんが一人ひとり丁寧にアドバイスをして回ります。その間、メンバーはお隣と話しをしたり、野の花の名前を調べたり、中には平山さんのアドバイスや、花の名前、活けた様子をノートに記録し、デッサンとして残している人も一。ほかの人の作品を見るのも勉強になると、平山さんの周りには自然にみんなが集まり、その手先に熱い眼差しが注がれています。

みんなで花を増やそうと、先日はアジサイの枝を分けて庭に挿しました。また、作品に魔法をかけるタカノハスキも増やしていこうと計画中です。坂地区の人だけでなく「どなたでもどうぞ」という気持ちを込めて『常磐会』と名付けました。キムチの容器や赤飯の入れ物も立派な花器に変身!!ミニトマトだって素敵に活けちゃいます。忙しい日々のひと時、あなたも「花あそび」ご一緒しませんか?



編集後記

★早いもので、広報たこの担当になり2年半が過ぎようとしています。この仕事をやるようになって一番困っているのは、今が一体何月なのか、自分が何月号の原稿を書いているのか、とときどき分からなくなる事!例えば、7月に取材を始め、8月初旬には印刷会社へ原稿を入れて、8月末に発行するのは9月号??9月号が出るころには、10月号の原稿も書き始めているし…。取材先で「これは何月号に載るの?」って聞かれたとき、答えるまでに間が空いてしまうのは、そういう理由があるんです。私の足りない頭では、整理するのに時間が必要なので…。話を聞いていない訳では決してありませんので、どうか気を悪くされないようお願いいたします★9月といえば初秋。暦の上ではもう秋です。吹く風も少し涼しげに―などと、秋らしい編集後記を書きたいところですが、実際に原稿を書いているのは夏真っ只中の8月5日。セミの声のシャワーが草むらの虫の音に変わることを想像するには、まだちょっと…ですね。

★広報が発行されると「お疲れさーが、わかることか、このコーナーの感想が電話やメールで寄せられます。自分はもちろん、家族などを切り売りしながら書いている赤塚編集後記だけに、感想を聞くのはちとお恥ずかしい★しかも、登場人物には事前に許可を得ず書いているのだから、血族はもちろん姻族・親戚縁者・友人たりとで、おちおち過ごしてられない。現在・過去・未来…。いつ自分が登場してしまうのか!! その恐怖に怯えて過ごしていることだらう★書き手の私としては、シャッターチャンスならぬ編集後記チャンスを見逃すと狙ってゐるのが実情。時々「書いてあげてな」と娘たちを脅しては楽しんでます★もちろん担当になる前は、この編集後記から迷わず読んでいた私だからこそ、頭をよぎることが…。それはこだけ読んであとはパラパラという不安。そこでキックとしたあなた!!今月号からでも結構です♥中身もじっくり読んでくださいね。